

Web ホスティングサービス利用マニュアル

総合情報メディアセンター
情報基盤部門

2018年12月

目次

Web ホスティングサービスとは	2
ホームページ公開までの手続きのながれ	2
注意事項	3
使い方	3
管理ページへのログイン	3
パスワードの変更	4
ユーザの追加	5
ユーザの変更	6
ユーザの削除	7
サイト情報の確認	8
MariaDB	9
パス(ファイルをアップロードする場所)について	9
例) Filezilla によるアップロード手順	10
学外からのファイル転送	11
アクセスのリダイレクト方法	12
meta タグでのリダイレクト	12
.htaccess でのリダイレクト	13
アクセス制限方法	15
アクセス元 IP アドレスで制限	15
ID とパスワードで制限	16

Web ホスティングサービスとは

Web ホスティングサービスとは、ホームページを公開する場所を提供するサービスです。申し込めばと Web ページを公開するためのサイトを所有いただけます。

このサービスは、総合情報メディアセンターが運用するサーバ上で運用しており、仮想的に複数の Web サイトのサービスを行います。サーバは、防犯・災害・回線接続性を考慮して学外のデータセンターに設置しております。

Web コンテンツ(ホームページ)の公開を希望される方は、本 Web ホスティングサービスを利用することにより、サーバの管理を行うことなく Web コンテンツを公開することができます。

ホームページ公開までの手続きのながれ

1. Web ホスティングサービス利用申込書』の提出（利用者）

Web ホスティングサービスの利用を希望される方は、別紙『[群馬大学総合情報メディアセンターWeb ホスティングサービスについて](#)¹』、『[Web ホスティングサービスガイドライン](#)²』を熟読のうえ、下記 Web ページから利用申請を行ってください。 ※申請には全学認証アカウントが必要です。

申し込みフォーム：<https://goo.gl/forms/KVO04csvhVA95fiS2>

2. 申込みの承認と通知（総合情報メディアセンター）

申込みが承認されると、総合情報メディアセンターから電子メールにて通知いたします。通知には設置しましたサイト情報、使用・管理するためのユーザー名、パスワードなど設定情報が記載されていますので、注意して保管してください。

3. 登録されたサイトの確認（利用者）

万全を期して運用しておりますが、不慮の事故によるデータの消滅の可能性は 0 ではありません。そのため、ファイル(使用しているならば MariaDB)のバックアップを定期的に行っていただく必要があります。

バックアップから回復する、つまりリカバリする場合にサイトの設定情報が必要となりますので、まず初めにサイトの情報を保存してください。バックアップがあってもサイト情報がないためにリカバリできないとバックアップが無駄になりますので、重要な作業となります。

¹ <https://www.media.gunma-u.ac.jp/content/files/itc/ITservice/webhosting/WebHosting.pdf>

² <https://www.media.gunma-u.ac.jp/content/files/itc/ITservice/webhosting/WebHostingGuideline.pdf>

4. 公開するファイルの作成（利用者）

公開するホームページのファイルを作成してください。市販のソフトウェアを使用しても、メモ帳などテキストエディタで作成いただいてもかまいません。「ホームページ 作成 入門」などで検索いただくと簡単な作成方法がヒットすると思います。

5. ファイルのアップロード（利用者）

作成したファイルを Web ホスティングサービスのご利用サイトにアップロードします。ファイルをアップロードすることにより、インターネットを通じて世界中に情報が公開されます。

6. 公開後の運用（利用者）

多くの Web サイトは内容(コンテンツ)を最新に維持していく必要があると思います。また、あたらしいページ・機能を追加したなど変更が発生するとおもいますので、定期的に、もしくは、変更が発生した都度、バックアップとサイト情報の保存をお願いします。

注意事項

システムの運用には、細心の注意を払っておりますが、セキュリティの確保などご利用いただく皆様のご協力が欠かせません。以下の点にご注意の上、ご利用ください。

1. セキュリティ

Web ホスティングサービスは、本学にとって侵入されては行けない重要なシステムで提供されているサービスです。侵入されれば他の Web ホスティング利用者にも大きな影響を及ぼします。このため、パスワードは慎重に管理し、**CMS 等の管理画面はアクセス制限を適切に行ってください**。WordPress など CMS では、プログラム自体にセキュリティ上の欠陥が見つかる場合があります。このため、使用している CMS のセキュリティ情報に注意し、脆弱性を解消するために CMS 自体のアップデートを継続して行う必要があります。

2. バックアップ

個々のサービスは申込者ごとに運用されますので、本センターでシステム全体を停止し、頻繁にバックアップを行うことはできませんので、万が一の場合に備えて、申込者の責任において定期的にバックアップを行うようお願いします。とくに、CMS とデータベース(MariaDB)を連携している場合、ファイルだけでなく MariaDB のバックアップが必要です。構築時には MariaDB を含めた定期的なバックアップ方法について考慮した上で構築してください。いざというときの復旧(リカバリ)ができるようにバックアップをお願いします。

使い方

管理ページへのログイン

管理ページでは、Web ホスティングの環境管理とユーザーの管理を行えます。管理ページは、『Web ホスティングサービス登録完了通知書』に記載されています。いきなりファイルをアップロードし

て、世界中に公開する前に、ご利用の Web ホスティングの環境確認とパスワードの変更をしておくことをおすすめします。

=> <https://hostingXX.media.gunma-u.ac.jp:81> <= 太字は作成通知に記載されます。

管理ページにアクセスすると、次のようなログイン画面が表示されます。登録完了通知書に記載されている『管理者ユーザ名』と『暫定パスワード』でログインしてください。

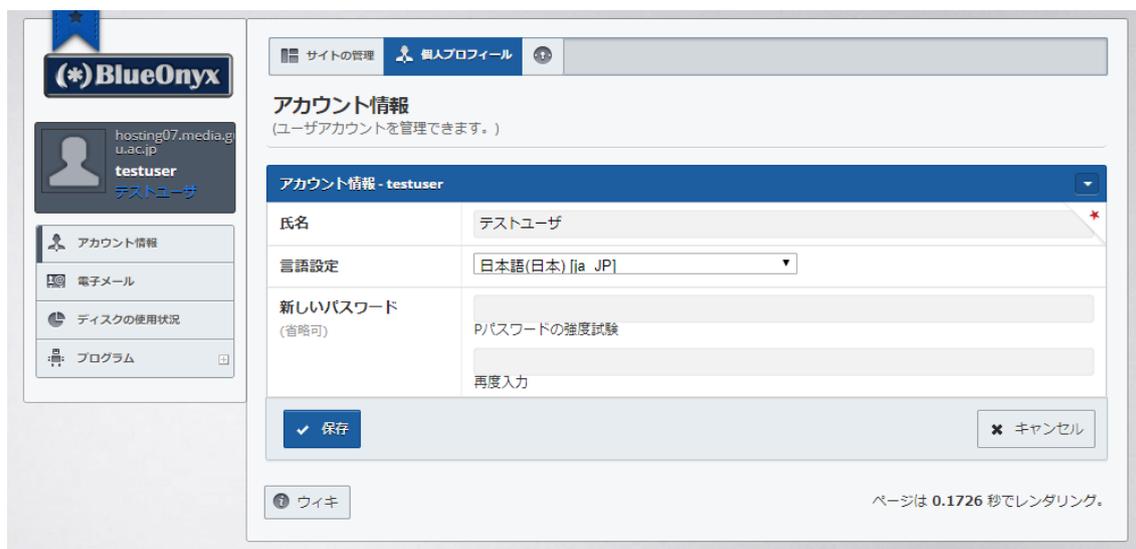


パスワードの変更

Web ホスティングサービスを実際にご利用いただく前に、セキュリティリスクを低減するためパスワードの変更をおすすめいたします。

1. 管理者の場合

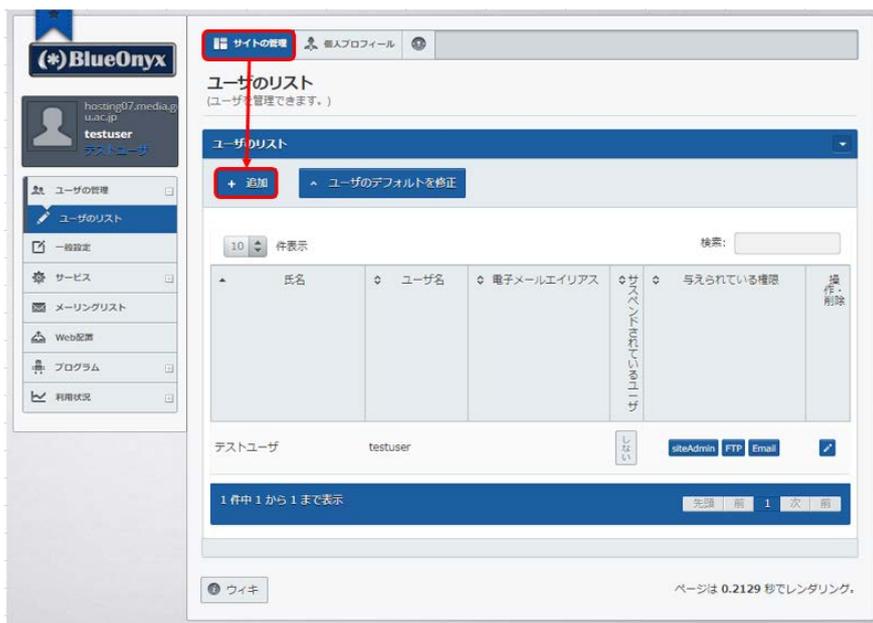
ログインすると、次のような画面が表示されます。



新しいパスワードの項目に設定するパスワードを2回入力し、保存ボタンをクリックして保存してください。なお、この場合は、誤ったパスワードの登録を防止するため、2回ともキーボードから入力してください。

ユーザの追加

1. 管理者権限のあるユーザでログインし、サイトの管理タブを選択後、[追加]ボタンをクリック



2. ユーザ追加の詳細画面が表示されるので適宜入力

test.media.gunma-u.ac.jp に新規ユーザを追加	
氏名	一般ユーザ
ユーザ名	foo_user
パスワード 強力なパスワード。 ※パスワードに「?~ ^ [()]+<?@_」は使えないので注意してください 再度入力
最大許容ディスク容量	20M (1M - 500M) 初期値が20MBなので、適宜変更してください。
サイト管理者	<input checked="" type="checkbox"/> 他のユーザを追加するユーザにする場合はチェックしてください。
DNS 管理者	<input type="checkbox"/>
電子メールを無効にする	<input type="checkbox"/>
電子メールエイリアス (省略可)	あなたが入力続ける、私は成長し続ける...
備考 (省略可)	あなたが入力続ける、私は成長し続ける...

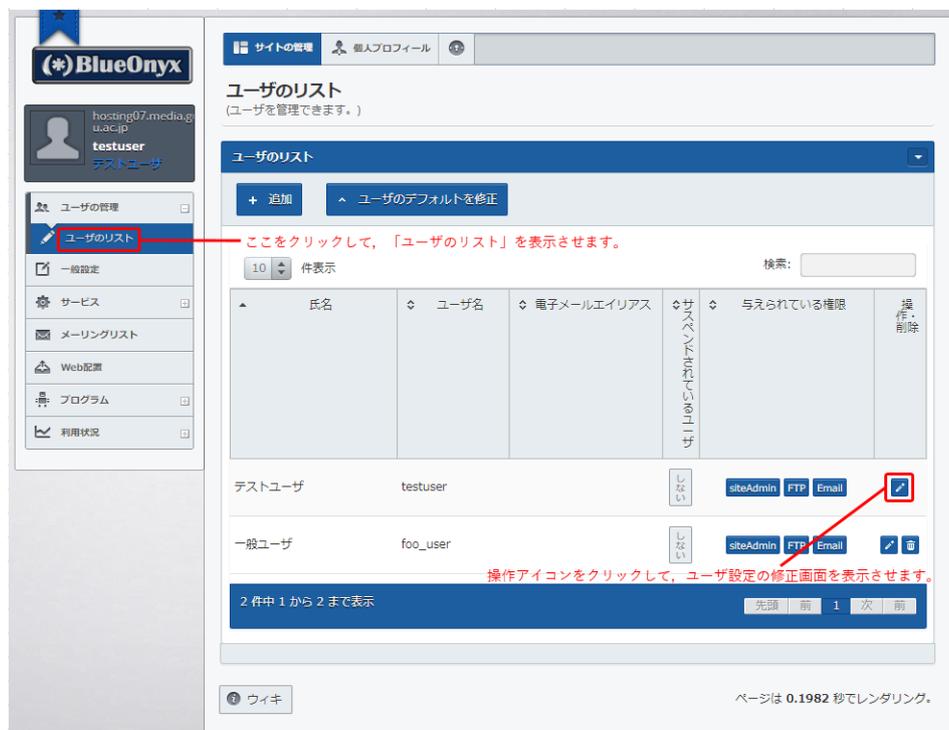
3. 画面下の[保存]ボタンをクリックし保存

「ユーザのリスト」に追加したユーザが追加されているか確認します。



ユーザの変更

1. 管理者で左側メニューの「ユーザのリスト」をクリックし、ユーザのリストを表示
2. 詳細を変更したいユーザの操作アイコンをクリック



3. ユーザ設定の修正画面が表示されるので適宜入力

The screenshot shows the 'testuser' user settings page. The '基本設定' (Basic Settings) tab is selected. The '最大許容ディスク容量' (Maximum allowable disk capacity) is set to 20M. The 'DNS 管理者' (DNS Administrator) checkbox is checked. The '保存' (Save) button is highlighted with a red box. Red annotations include: '入力可能ですが、これらの機能は無効になっております。ご了承ください。' (Input is possible, but these functions are disabled. Please understand.) pointing to the '基本設定' and 'IMAPの同期' tabs; '当該ユーザがアップロードできる容量になります' (This is the capacity that can be uploaded by this user) pointing to the '最大許容ディスク容量' field; and '修正が完了したら、「保存」ボタンをクリックしてください。' (After the correction is complete, click the 'Save' button.) pointing to the '保存' button.

項目	値
氏名	テストユーザ
ユーザ名	testuser
パスワード	パスワードの強度試験
再度入力	
最大許容ディスク容量	20M (1M - 500M)
サスペンド	<input type="checkbox"/>
備考	あなたが入力続ける、私は成長し続ける...
サイト管理者	<input checked="" type="checkbox"/>
DNS 管理者	<input type="checkbox"/>

4. 画面下の[保存]ボタンをクリックし保存

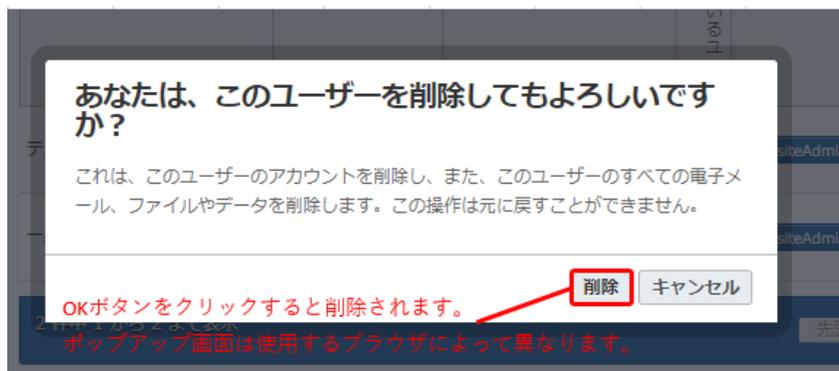
ユーザの削除

1. 管理者で左側メニューの「ユーザのリスト」をクリックし、ユーザのリストを表示
2. 削除したいユーザの削除アイコンをクリック

The screenshot shows the 'ユーザのリスト' (User List) page. The table lists users with columns for Name, Username, Email Address, Suspend Status, Granted Permissions, and Action. The 'testuser' and 'foo_user' rows are visible. The '削除' (Delete) icon for 'foo_user' is highlighted with a red box and a red arrow pointing to it with the text '削除ボタンをクリック!' (Click the delete button!).

氏名	ユーザ名	電子メールエイリアス	サスペンドされているユーザ	与えられている権限	操作: 削除
テストユーザ	testuser		しない	siteAdmin FTP Email	
一般ユーザ	foo_user		しない	siteAdmin FTP Email	

3. 確認画面が表示されるので、[OK]ボタンをクリック



「ユーザのリスト」に削除したユーザが消えているか確認します。

サイト情報の確認

不慮の事態やデータの移行を考慮して、サイト設定を確認しておきます。管理ページからログインし、以下を確認しておいてください。

1. ユーザのリスト

左側のメニューで、「ユーザの管理」⇒「ユーザのリスト」とクリックします。ここでユーザの追加や削除なども可能です。ユーザ名の一覧を控えておいてください。

2. サイトのパス

左側のメニューで、「サービス」⇒「PHP」とクリックします。Open Basedir(Server)の二番目のパスを控えて置いてください。

The screenshot shows the BlueOnyx control panel interface. On the left is a navigation menu with 'PHP' selected. The main content area displays the 'PHP' settings for the site 'test.media.gunma-u.ac.jp'. A red box highlights the 'Open Basedir (サーバ)' path: '/home/.sites/106/site3'. A red arrow points from a note to this path. Another red arrow points from a note to the 'Open Basedir (サーバ)' label.

PHP
(この仮想サイトのPHP関連のセキュリティとresource設定。個別サイトごとにPHP関連のセキュリティとリソースの設定を調整することができます。)

①左側メニューのサービスをクリックして展開し、PHPをクリックします。

test.media.gunma-u.ac.jpのためにPHPの設定

Vsite PHPバージョン:	5.4.16
Open Basedir (サーバ):	/home/ /home/.sites/106/site3 /tmp/ /usr/sausalito/configs/php/ /var/lib/php/session/
Open Basedir (Vsite):	
URLのFOPENを許可:	Off
URLが含まれることができます:	Off
最大ファイルサイズをアップロードする:	2M
最大サイズを投稿:	8M
最大実行時間:	30
最大入力時間:	60
最大入力のはvarsの:	1000 (-1 - 65,535)
メモリ制限:	16M

②Open Basedir(サーバ)の二番目のパスがサイトのパスになります。

3. MariaDB のログイン

「個人プロフィール」タブ => 左側メニューのプログラム内の「phpMyAdmin」で、電子メールで通知された MariaDB のユーザ名、パスワードで ログイン可能かご確認ください。

管理画面では ID とパスワードを表示できませんので、通知された電子メールは紛失しないようご注意ください。

Web ホスティングサービスを開設した初期状態では以下のようになっております。

1. 初期設定では、ユーザーが 1 人登録されています。最大で 10 人まで登録可能です。
2. サイトのディスク容量の上限は、500MB です。初期設定では、ユーザー一人当たりのディスク容量制限は 20MB です。多くの場合、管理者が一括してファイルをアップロードすると思われませんが、この値が 20MB のままですと、**サイト容量上限の 500MB を使用できませんのでご注意ください**。また、各ユーザについてディスク容量の上限までの範囲で管理者が変更できますが、サイトのディスク容量の上限を超えてアップロードはできません。
3. サイトのパスは、 /home/.sites/{XXX}/site{ XXX }となっております。

なお、ユーザ数、サイトのディスク容量、Memory limit 等 PHP のパラメータの上限を増やしたい場合は、総合情報メディアセンター(request@ml.gunma-u.ac.jp)まで御連絡ください。

MariaDB

phpMyAdmin を使って、DB (MariaDB) のエクスポート・インポートが可能です。管理画面の「個人プロフィール」タブ => 左側メニューのプログラム内の「phpMyAdmin」とクリックするとユーザ名とパスワードを求められますので、それぞれ入力し[Log in]ボタンをクリックしてください。

申請時に DB (MariaDB) の使用を明記していない場合、初期設定では DB (MariaDB) を利用できない状態になっています。使用可能とする場合は、総合情報メディアセンター(request@ml.gunma-u.ac.jp)までご連絡ください。

パス(ファイルをアップロードする場所)について

Web ページを公開する場合、公開するファイルを ftps でサイトにアクセスしてアップロードします。

以下 Web ホスティングサービスのディレクトリ構成となります。



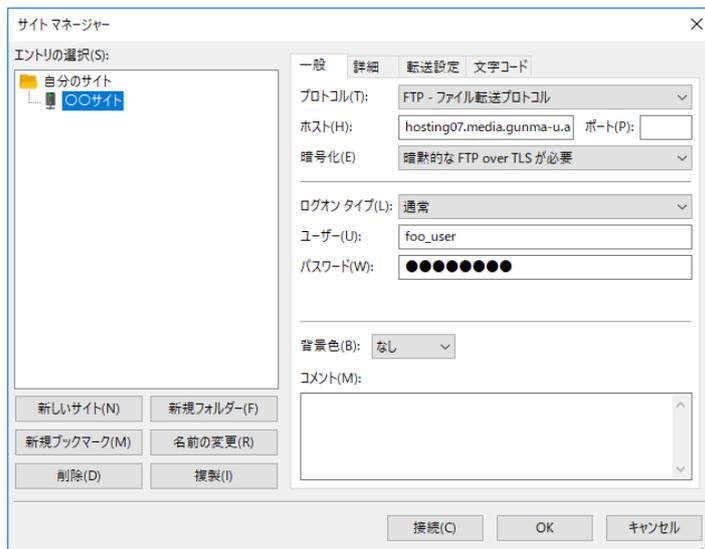
※1.....「<http://{サイト名}/{ユーザ名}/>」で Web ページを公開するときにファイルをアップロードする位置になります。

※2.....「<http://{サイト名}/>」で Web ページを公開するときにファイルをアップロードする位置になります。ftp でアクセスした直後のカレントディレクトリでもあります。

例) Filezilla によるアップロード手順

Filezilla という FTP クライアントソフトでのアップロード手順を紹介します。このソフトはフリーソフトです。インストーラーのダウンロードは下記 URL から可能です。

FileZilla インストーラ: https://filezilla-project.org/download.php?show_all=1



サイト名: ご自身でわかるもの(自由)

ホスト名: hostingXX.media.gunma-u.ac.jp
(XX はメディアセンターから送付された番号)

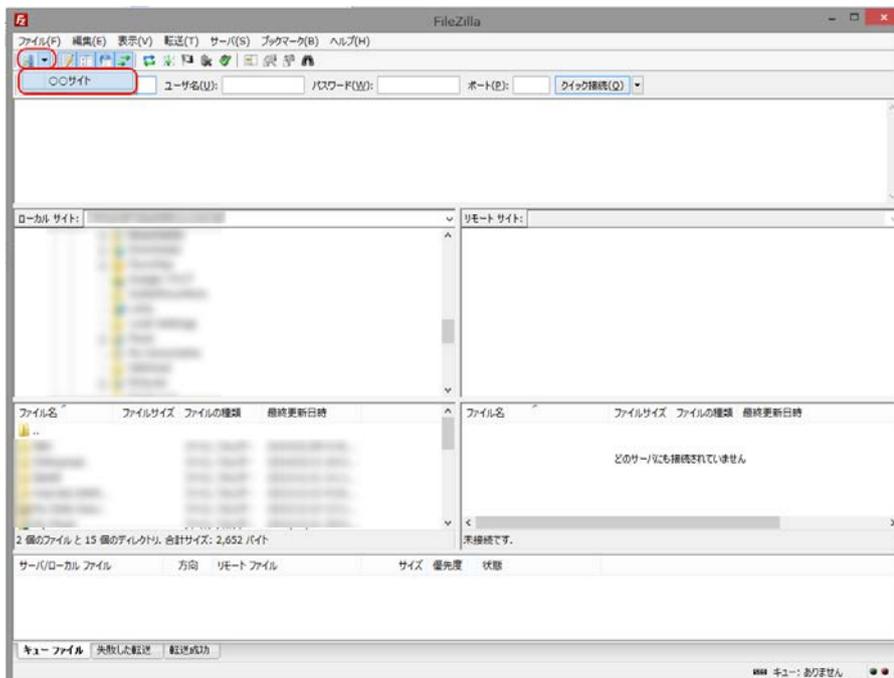
暗号化: 暗黙的な FTP over TSL が必要

ログインの種類: 通常

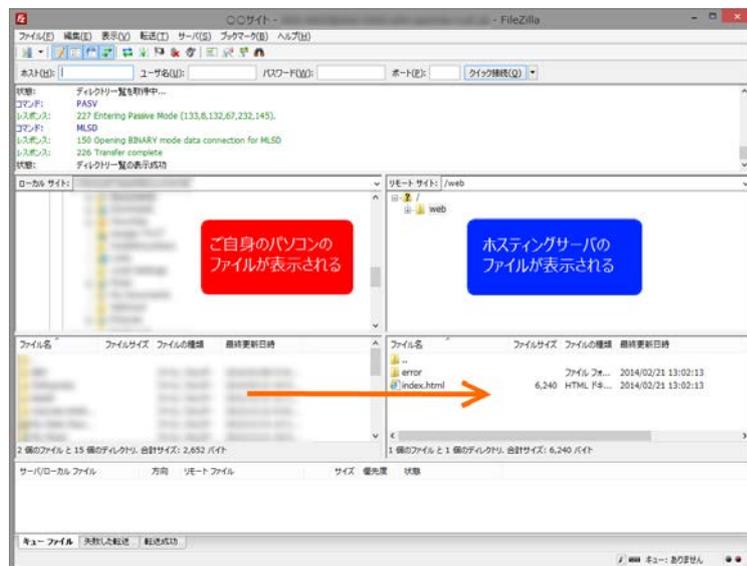
ユーザ名: メディアセンターから送付されたユーザ名
(もしくは追加したユーザ名)

パスワード: 上記ユーザに対して設定したパスワード

1. メニューから上記で作成したサイトを選択します。



2. ホスティングサーバとの接続が成功すると以下のウィンドウが表示されます。



ご自身のパソコンからホスティングサーバへファイル群をドラッグ（橙矢印）することでアップロードとなり、ホームページの内容が更新されます。

- ・管理者ユーザで接続開始した場合に表示される場所は P9 の※2 の位置になります。
- ・一般ユーザで接続開始した場合に表示される場所は P9 の※1 の位置になります。

学外からのファイル転送

学外から Web ホスティングシステムへのアクセスはセキュリティを維持するため原則禁止しております。しかし、コンテンツ作成を業者などに依頼する場合などは、接続元の IP アドレスを指定して FTPS でのアクセスを一時的に許可しております。固定 IP アドレスが無い場合は接続許可を行うことができませんので、本学まで来てもらい納品や作業を行ってもらってください。

1. 総合情報メディアセンターへの連絡

サイト名、業者名、業者の IP アドレスを request@ml.gunma-u.ac.jp までご依頼ください。連絡いただきましたら一時的に学外から Web ホスティングシステムへのアクセスを許可します。

メール例：

To: request@ml.gunma-u.ac.jp
Subject: 学外からのアクセス許可について

Web ホスティング担当者 様

〇〇の〇〇と申します。

下記につきまして、学外からのアクセスを許可してください。
よろしく申し上げます。

記

サイト名: test.dept.gunma-u.ac.jp
アクセス元 IP: 123.45.67.89
業者名: (株)Web サイトクリエート

2. ftps で接続

ファイルのアップロードは ftps で行います。[WinSCP](http://winscp.net/eng/docs/lang:jp)³, [FileZilla](http://sourceforge.jp/projects/filezilla/)⁴などが ftps に対応しております。また, ftps に対応したホームページ作成ソフトならば直接アップロードが可能です。

Dreamweaver は[設定](http://helpx.adobe.com/jp/dreamweaver/using/connect-remote-server.html)⁵を行うと ftps で直接アップロード可能となります。

アクセスのリダイレクト方法

Web サイトを引っ越しさせたときに, よく『この Web ページは, 移動しました。10 秒後に自動的にジャンプします。』というようなページが表示されます。このように自動的に新しい URL に誘導することをリダイレクトといいます。リダイレクトにはおおまかに 2 種類の方法があり, html のヘッダー部分に meta タグとして記述する方法と, .htaccess に記述する方法があります。

それぞれ, 以下がサンプルになりますので, 適宜変更してお使いください。

meta タグでのリダイレクト

meta タグの方法の場合は, 簡単ですが記述したページにアクセスがあった場合のみ転送されます。また, いったんページを表示させてから 10 秒後に転送するといったことが可能です。

転送させたいページ(旧ページ)の<head></head>の部分に, <meta http-equiv="refresh" content="秒数;URL=転送先 URL">の記述を追加するだけです。

以下は, ページを開いて 10 秒後に群馬大学のトップページ(<http://www.gunma-u.ac.jp/>)に転送する場合のサンプルソースになります。

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Transitional//EN">
<html lang="ja">
<!-- save as "../redirect-sample.html" -->

<head>
<meta http-equiv="Content-Language" content="ja">
<meta name="GENERATOR" content="Microsoft FrontPage 5.0">
<meta name="ProgId" content="FrontPage.Editor.Document">
<META http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=UTF-8">

<title>新しいページ へ</title>

<!-- この部分がリダイレクトのポイント!!! -->
<meta http-equiv="refresh" content="10;URL=http://www.gunma-u.ac.jp/">
<!-- 上の行の, "10"をジャンプするまでの秒数, URL以降を新しいアドレスに書き換え, <head>と</head>の間に記述してください。 -->
```

³ <http://winscp.net/eng/docs/lang:jp>

⁴ <http://sourceforge.jp/projects/filezilla/>

⁵ <http://helpx.adobe.com/jp/dreamweaver/using/connect-remote-server.html>

```
</head>
<body>
<!-- ここからは、自由に書き換えてよい。-->
<p>このページは、移動しました。10 秒後に自動的にジャンプします。</p>
<p>ジャンプしない場合は、以下のリンクをクリックしてください。</p>
<p>
<a href="http://www.media.gunma-u.ac.jp/">http://www.media.gunma-u.ac.jp</a></p>
<!--ここまで-->
</body>
</html>
```

.htaccess でのリダイレクト

.htaccess の場合は、リダイレクトルールの記述が少々難しいですが、サイト全体のリダイレクト、ディレクトリ単位のリダイレクトなど柔軟な転送が可能です。

なお、Windows 上では「.htaccess」というドットで始まるファイルを作成できませんので、適当なファイル名（例えば ht.access）で保存しておき、アップロードしてからファイル名を「.htaccess」に変更してください。

サイト全体のリダイレクトは、ディレクトリ構造が同じまま別サイトに引っ越した場合などに使用します。

たとえば、

旧サイトの URL (転送元) <http://old.dept.gunma-u.ac.jp/>

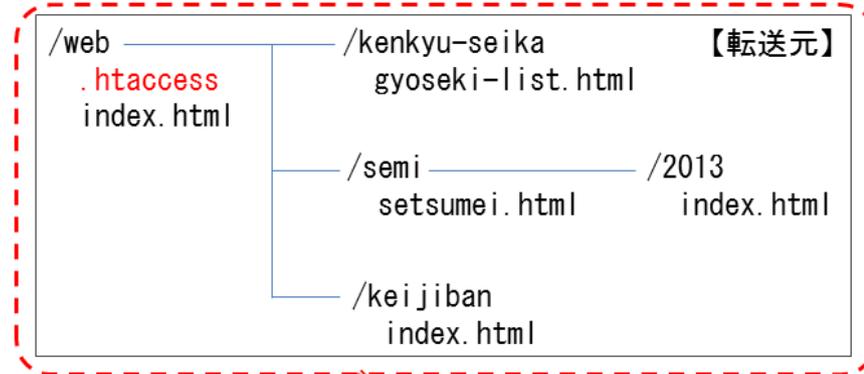
新サイトの URL (転送先) <http://new.dept.gunma-u.ac.jp/>

という場合は、

```
Redirect permanent / http://new.dept.gunma-u.com/
```

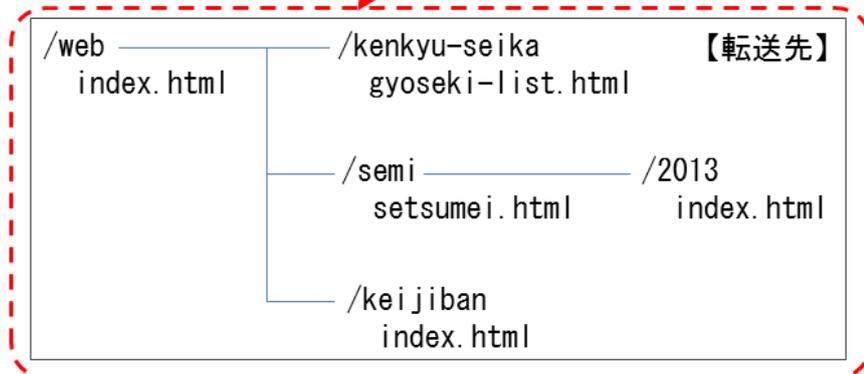
という内容の.htaccess ファイルをルートディレクトリに保存します。

old.dept.gunma-u.ac.jp



全部のページがそのままの階層位置で転送されます

old.dept.gunma-u.ac.jp



次にディレクトリごとに転送させてみます。たとえば、

旧サイトの URL (転送元) <http://old.dept.gunma-u.ac.jp/semi/2013/>

新サイトの URL (転送先) <http://new.dept.gunma-u.ac.jp/semi-2013/>

旧サイトの URL (転送元) <http://old.dept.gunma-u.ac.jp/keijiban/>

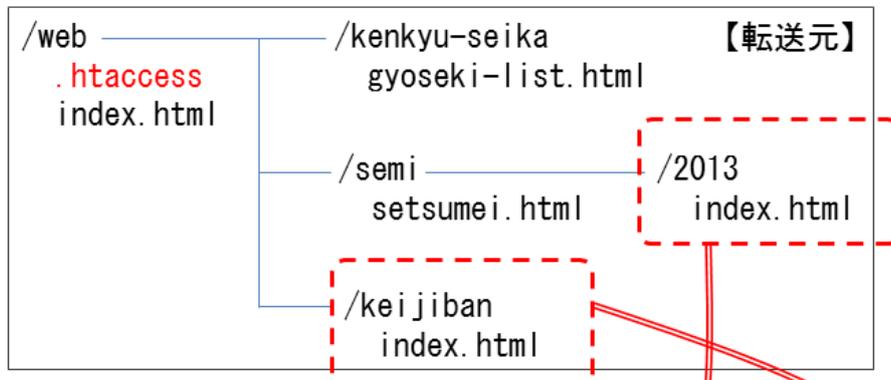
新サイトの URL (転送先) <http://new.dept.gunma-u.ac.jp/about/keijiban/>

という場合は、

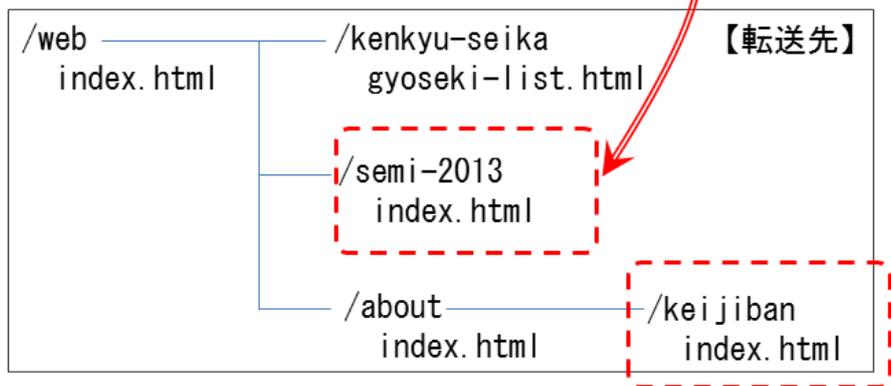
```
Redirect permanent /semi/2013/ http://new.dept.gunma-u.ac.jp/semi-2013/
Redirect permanent /keijiban/ http://new.dept.gunma-u.ac.jp/about/keijiban/
```

という内容の.htaccess ファイルをルートディレクトリに保存します。

old.dept.gunma-u.ac.jp



new.dept.gunma-u.ac.jp



指定された階層のページが転送されます

詳細につきましては、「htaccess リダイレクト」などで検索してみてください。

アクセス制限方法

無制限に情報を公開したくない場合がありますが、アクセス元 IP アドレスや ID/パスワードでアクセスを制御することができます。.htaccess に記述することで、.htaccess を保存したディレクトリ以下に対してアクセス制限を実現できます。

アクセス元 IP アドレスで制限

特定のディレクトリへのアクセスを、アクセス元 IP アドレスにより限定などすることができます。

例1:学内のネットワークからのアクセスのみ許可したい場合

```
<Files ~"^\.ht">  
  Require all denied  
</Files>  
  
Require all denied  
Require ip 133.8.0.0/16
```

例2:アクセスを許可したくないホストを登録したい場合

```
<Files ~"^\.ht">  
  Require all denied  
</Files>  
  
Require all granted  
Require not ip 210.174.122.248
```

構文	意味
<Files ~"^\.ht"> Require all denied </Files>	本設定ファイル(.htaccess)が不用意にアクセスできないようにするための設定です。
Require all denied	全アクセスを拒否します。
Require all granted	全アクセスを許可します。
Require ip	「許可」する条件を指定します。
Require not ip	「許可」する条件を指定します。

基本的には、「全て許可したあとに一部分を拒否する」もしくは「全て拒否したあとに一部分を許可する」で指定しますが、orderの順番を間違えるとアクセス制限が全くない、もしくは、どこからもアクセスできないとなりますのでご注意ください。

IPアドレスで制限した時は、拒否と許可の両方が想定どおり動作しているか確認してください。片方だけですと、制限したつもりが全て許可、全て拒否となっている場合がありますので、ご注意ください。

IDとパスワードで制限

ID/パスワードで制限する場合は、2つのファイルが必要になります。ID/パスワードで制限することを記述した.htaccessファイルと、ユーザ名と暗号化されたパスワードの組み合わせを記述したファイル(以下「パスワードファイル」と呼ぶ)です。

まず、パスワードファイルの作成方法ですが[認証パスワードの生成](#)⁶でユーザ名とパスワード文字列を作成し、メモ帳等に張り付けて保存してください。ファイルの内容は次のようになります。

```
yamada:ug22d9Ktynqw  
tanaka:k3lRxLghxDa8w
```

ここでは、この内容で「.htpasswd」というファイル名でサーバに保存します。次に.htaccessファイルを作成します。

⁶ <http://www.luft.co.jp/cgi/htpasswd.php>

```

<Files ~ "^\.ht">
  Require all denied
</Files>

AuthUserFile /home/.sites/39/site17/web/.htpasswd
AuthGroupFile /dev/null
AuthName "Please enter your ID and password"
AuthType Basic
require valid-user

```

構文	意味
<pre> <Files ~ "^\.ht"> Require all denied </Files> </pre>	<p>「.htaccess」「.htpasswd」ファイルを外部(ブラウザ)からアクセス不可にするための設定するための記述です。太字部分は、先頭が「.ht」で始まるファイルに該当する場合という意味になります。ファイルに保存されているパスワードは暗号化されていますが、解析される可能性がありますので、パスワードファイルを保存する場所に必ず制限をかけてください。また、.htaccessもサイトの設定情報が書かれていますのであわせて保護しておくことをおすすめします。</p>
AuthUserFile	<p>IDと暗号化されたパスワードの組み合わせファイルを指定します。絶対パスで記載します。この例ではサイトのルートディレクトリに保存しています。サイトによって太字部分が異なりますので、ご利用しているサイトのパスを調べて適宜変更してください。</p>
AuthGroupFile	<p>アクセスできるユーザーをグループ分けする場合に指定します。この例では使用しません。</p>
AuthName	<p>ポップアップされる認証画面に表示するメッセージを記述します。日本語でも構いませんが、文字コードに注意しないと文字化けします。</p>
AuthType	<p>認証タイプを指定します。BASICを指定してください。</p>
require	<p>認証されたユーザーがアクセスできるかの指定を行います。この例では「valid-user」を指定してあり、パスワードファイルに記述されたユーザー全てをアクセス可能となります。他に「user」「group」を指定可能で、アクセス可能ユーザーやグループの絞りこみが可能です。</p>

さて、2つのファイルの準備ができましたが、これらをドキュメントルートにあたるフォルダに保存すると、サイト全体がID/パスワードによる認証を行わないとアクセスできなくなります。

.htaccessを特定のディレクトリに保存すれば、そのディレクトリ以下へのアクセスに認証が必要となります。